

令和4年度学校経営目標達成に向けての具体的方策・達成基準

重点目標	担当	課・年次・委員会の目標	具体的方策	達成基準	中間評価	評価	最終評価	評価	
I 学びに向かう力を持つ生徒の育成	一指体導化と評価の	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者に評価に関する仕組みについて事前に説明したり、評価に関する情報をより積極的に提供する。【自律・挑戦】 評価により生徒の学習状況の把握をし、指導の改善に活かしていく。【自律・挑戦】 	<ul style="list-style-type: none"> シラバスを年度始めに、生徒・保護者に公開する。 評価した具体的な観点などを残し、フィードバックをおこなって、次年度に活かす。 フィードバックした内容を、きちんと引き継げるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての教科が年度始めにシラバスを公開できている。 評価の基準などが文章として残っている。 	C	<ul style="list-style-type: none"> シラバスについては、来年度が始まってすぐに公開できる体制をつくることのできた。 評価基準については、シラバスに記載する。 	B	
	知識技能の習得	金融教育 研究委員会	<ul style="list-style-type: none"> 自分の人生や社会との関わりの中で金融をどのように活用していくか、問題解決的に学ばせる。【自律】 	<ul style="list-style-type: none"> 「地歴公民科」「家庭科」「商業科」の科目において、金融教育の視点を加味した授業を展開する。 日本旅行の協力を得て、クラウドファンディングを活用した商品開発や販売活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 金融教育に関する知識や判断力を活用しながら、自らの人生や世の中の動きを自分事として捉え、生きる力や価値観を身に付けており、金融に関する意識が向上したと自覚できる生徒の割合が50%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 中国銀行の支援を受けてクラウドファンディングの仕組みを学び実際に募集を行い、ラジオやTV、新聞などのメディアを活用し、目標金額を集めることができた。 3年次生対象の金融教育講演会を11月に実施予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス科3年次生がクラウドファンディングサイト「つなぐむ」を活用してクラウドファンディングに挑戦し、目標金額75万円に対して80万4千円もの支援金を集めることができた。この資金を活用して10月30日に全国26校の高校生が開発した商品を仕入れて販売するイベント「SDGsいちなまるとしえ」を開催することができた。 11月18日に3年次生全員を対象に「高校生のための消費者講座」の講演会を開催した。 ビジネス科3年次生へのアンケートによると、金融に関する意識が向上したと自覚できる生徒の割合は、「とても向上」「やや向上」を合わせて約8割であった。 	B
		2年次	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぶ力、自ら情報を活用する力を身に付けさせる。【自律・挑戦】 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間や、進路学習等で調べ学習を取り入れ、個人やグループで情報をまとめたり、活用したりすることができるようにする。 定期考査毎に、キャリアサポートで目標や振り返りの場を設けたり、土曜講座への積極的な参加を呼びかけたりして、考査に向けて意欲的に取り組ませる。 予習や復習、課題提出にGWEを有効活用する。 各種検定へ意欲的に挑戦するように各クラスや各教科で呼びかけをし、意欲的に学べる環境作りをする。 年次集会や年次通信等を使って、各科・各コースごとの授業・行事の様子や成果を生徒に発信し、活動の「見える化」を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年次アンケートで「授業に積極的・意欲的な態度で取り組んでいる」という肯定的回答が90%以上となる。 各種検定への受検率、合格率を上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年次アンケートで「授業に積極的・意欲的な態度で取り組んでいる」という肯定的回答は97.5%。 普通科の検定の受検者数は低迷している。引き続き声掛けをしていく。ビジネス科の情報処理検定1級は52名中7名合格。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年次アンケートで「授業に積極的・意欲的な態度で取り組んでいる」という肯定的回答は94.1%。授業に必要な教材等も揃えている生徒がほとんどである。 普通科生徒の英検・漢検受検者数は微増、英検では準2級合格者が1名。進路意識の向上に伴い検定受検者が徐々にではあるが増えている。ビジネス科は1月～2月の検定試験を頑張ってもらいたい。 自身の進路について相談に来る生徒も増えてきている。 	B
	確立学習習慣の	1年次	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律を確立することにより、落ち着いた学習環境を整え、意欲的に授業や課題に取り組む姿勢を身につけさせる。【自律・挑戦】 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の環境整備、机周りの整理整頓、授業開始時の挨拶等、あたり前のことをあたり前に行い、活用したりすることができるようにする。 課題等の提出期限をきちんと守ることができるよう、教員間で情報共有を行いながら効果的に指導できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートで「授業に必要な教科書などの準備ができている」という肯定的回答が85%以上となる。 授業アンケートで「積極的・意欲的な態度で取り組んでいる」という肯定的回答が80%以上となる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時、終了時の挨拶はきちんとできている生徒がほとんどである。授業に必要な教科書などの準備物が整っていない生徒が時に見られる。机周りの整理整頓が苦手な生徒もいるので引き続き指導していきたい。 	B	
	Chromebookの活用研究	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年次生が1人1台端末を毎日の学習活動に活用できるようにする。【自律】 全ての年次が校内アンケートをGoogle Workspace for Educationのフォームを通じてできるようにする。【自律】 教職員が、1人1台端末を校務や教科指導に活用できるようにする。【挑戦】 	<ul style="list-style-type: none"> 活用推進担当による1人1台端末活用公開授業を実施し、全教員に授業での利活用の方法について周知する。 1、2年次について、各教科内での年間1回以上の端末活用授業の公開を実施し、活用促進を促す。 会議資料をデジタル化して、デジタルとペーパーの良い部分を活かしながらハイブリッドで会議を行い、教職員の端末利用意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年次生全員が1人1台端末を毎日の授業のどこかで利用できている。 全ての年次が校内アンケートなどで年間1回以上GWEを利用している。 教職員の85%以上が1人1台端末を校務や教科指導に利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、どこかの授業で利用していることについては、おおむね達成できている感じである。最終的には、生徒へのアンケートなどを実施して調査を行う予定にしている。 GWEのアンケートへの利用については、活発に行なわれている。 朝礼やSHR連絡などはポータルサイトの整備ができたので、教職員のほぼ全員が校務や教科指導に利用している状況である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ハード面、ソフト面の充実により、授業や分掌業務などでのChromebookの活用が増えている。 年度末～年度始めにかけての設定方法や生徒が活用するための流れなどをマニュアル化していきたい。 	B
		授業研究委員会	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が1人1台端末を教科指導に活用できるようにする。【挑戦】 	<ul style="list-style-type: none"> 5月の教員研修や6月の公開授業週間は、Chromebookの活用の特化した内容を取り入れ、授業研究委員会のメンバーが各教科へ伝達講習し、各教科がチームとなって、オンデマンド型授業を最優先した教材づくりや、オンライン授業、Chromebook活用方法について準備・実施できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員全員がChromebookを教科指導で利用している。 11月の公開授業週間で、各教科内で1つ以上、Chromebookを活用した公開授業が実施できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月と9月の全体研修会は、Chromebookに特化した内容で実施し、効果的なChromebookの活用方法について研修することができた。 11月の公開授業週間で、各教科内で1つ以上、Chromebookを活用した公開授業ができるよう準備している。 各教科や校務で活用できるよう、各校のChromebookの活用事例をClassroomで配信した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 11月の公開授業週間では、各教科でChromebookを活用した公開授業を実施することができた。 他校のChromebookの活用事例を紹介したり、全体研修でmeetの研修をしたりした。また、放課後を活用した教員ミニ研修を複数回実施することができた。 	B
	業主の体的研究に考え表現する授業	授業研究委員会	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を自分の問題として主体的に捉え、自分の考えを表現できる場を毎学期1回以上設定する。【自律】 6月と11月の公開授業週間への積極的な参観を呼びかけ、他の教員の授業展開や工夫を自分の授業に生かすことができるようにする。 Chromebookを活用して、公開授業参観後のアンケートの実施や振り返り、他校の取組等を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業で、学習内容を自分の問題として主体的に捉え、自分の考えを表現できる場を毎学期1回以上設定した先生が60%以上である。 公開授業週間で、1回以上の参観ができている先生が100%以上。(R3:4.8%) 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教員の授業展開や工夫を自分の授業に活かすことができるよう、公開授業週間や全体研修後に授業参観を積極的に呼びかけた。 公開授業週間で、時間の都合等で参観できていない教員がいるので、11月の公開授業週間では全員が参観できるよう、参観方法を工夫したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 11月の「鷲羽盛」では、例年より公開授業数を減らし、活発に相互参観できるようにした。当日は研究協議の時間を設け、様々な視点から授業を振り返ることができた。また、公開授業週間に各教科でChromebookを活用した授業を実施し、教科内で研究協議する機会を設けたことで効果的な端末利用について共有することができた。 思考を促すChromebookの活用を希望する声が多かったため、思考を促すアプリの教員研修やミニ研修を実施した。多数の参加があり、授業改善に活かされている。 学校自己評価アンケートで「私は、授業がよりよくなるよう工夫に努めている」の肯定率が100%であった。引き続き「主体的に考え表現する授業の研究と実践」に全教員で取り組むことができるよう励みかけをしたい。 	B	

重点目標	担当	課・年次・委員会の目標	具体的方策	達成基準	中間評価	評価	最終評価	評価	
II 目標を持ち将来へ前向きに進む生徒の育成	高生 動員 生徒 委員 の学 校活 動行 事、 充 実部	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちが主体的に学校行事、部活動、委員会活動に取り組む環境を作る。【自律・挑戦】 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心とした生徒たちとの意見交換の場をつくり、生徒たちの意見を積極的に取り入れる。 部活動見学の機会を設けるなど入部の機会を増やす。 集会などで教員だけでなく各委員会の委員長が話をする機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「私は、部活動や生徒会活動、委員会活動や係の仕事に、すすんで参加している」が昨年度より肯定的回答率が上昇している。(昨年度全体平均79.3%) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちとの意見交換会を10月に開催予定である。 部紹介のポスターを作り、昇降口に掲載し、部活動への参加を促した。 各種委員会等で委員長が司会をしたり、意見を集約したりしている委員会もある。生徒課から今後働きかけをして、委員会の生徒が話す機会を設けることができるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「私は、部活動や生徒会活動、委員会活動や係の仕事に、すすんで参加している」が昨年度より肯定的回答率が大幅に上昇した。(今年度全体平均86.9%) 	B
	ト各 種 の 検 定 戦 ・ コ ン テ ス ト	3 年 次	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定、漢字検定に3年次全生徒の50%以上が挑戦する。【挑戦】 ビジネス科生徒の全商1級3種目以上合格者60%以上を目指す。【挑戦】 各種コンテストに各料1回以上挑戦し、入賞を目指す。【挑戦】 	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定へ意欲的に挑戦するように各クラスや各教科で呼びかけをし、意欲的に学べる環境作りをする。 補習や課題、Google Formsを有効活用し、検定取得に向けての意欲を高め、合格へと導く。 授業や課題研究での取組を各種コンテストに積極的に応募し、準備、参加することで主体性や表現力を身に付け、自信をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定、漢字検定に3年次全生徒の50%以上が挑戦する。 ビジネス科生徒の全商1級3種目以上合格者60%以上となる。 各種コンテストに各料1回以上挑戦し、入賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> Google Formsを活用して、一般常識に関わる小テストを連休課題として実施することができた。 各料で複数のコンテストや発表会に挑戦することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定、漢字検定へ挑戦する生徒は昨年度より少なかったが、上位級に挑戦し合格することができた。 ビジネス科生徒の全商1級3種目以上合格者は、1/11現在で、54.8%である。(過去最高)年度末には60%以上を目指したい。 普通科の課題研究で取り組んできた内容を鎌倉女子大学「お弁当甲子園」に出品したり、山陽学園大学「地域マネジメントコンテスト」、建築フェスで発表した。また、ビジネス科は福知山公立大学「田舎力甲子園」に出場した。山陽学園大学「地域マネジメントコンテスト」では優秀賞、福知山公立大学「田舎力甲子園」では最優秀賞を受賞することができた。 	A
	進路 指 導 体 制 の 充 実	進路課	<ul style="list-style-type: none"> 教師、生徒、保護者が「いつでも、どこでも」進路課の取り組みや情報にアクセスできる「開かれた進路課」を目指し、「スマート進路課構想」を推進する。【挑戦・思いやり】 教師、生徒ともにアクセスしやすい進路指導室の整備。【挑戦・思いやり】 教師、生徒ともにアクセスしやすい進路情報の整理。【挑戦・思いやり】 教師、生徒ともにアクセスしやすい進路目標の設定。【挑戦・思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室や進路ガイダンス室の美化、整備を行い、教師や生徒が来室・利用しやすい環境を作る。 Chromebook等を活用して外部の進路情報や内部の計画・取り組みやその成果を迅速かつ効率的に発信する。 教師、生徒にとってより使いやすい「キャリアパスポート」の研究・作成（主幹教諭との連携）。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に「進路課評価アンケート」を教師・生徒に実施し、以下の項目で肯定群80%以上を目標達成とする。 「進路指導室や進路ガイダンス室が利用しやすくなった」 「進路に関する情報にアクセスしやすくなった」 「進路実現に向けた取り組みの目標やねらいがわかりやすくなった」 	<ul style="list-style-type: none"> 5年以上前の資料・過去問題等の書籍を廃棄、またガイダンス室に求人票整理用棚を1台整備するなど、進路指導室・ガイダンス室の美化・整備に努めている。 1、2年次文理コースでChromebookによるベネッセ「マナビジョン」の活用を進めている。これにより、模試対策・模試結果の確認や進路目標の設定等がより早く、よりスムーズに実施できるようになった。 冊子版「キャリアパスポート」は概ね完成している。今後、Chromebook等のデジタル端末との連携を模索し、よりスマートな「キャリアパスポート」の完成を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種資料・過去問題等の書籍の廃棄を継続し、各大学や専門学校から送付されてくる募集要項等を整理する整理箱、求人資料などを整理するトレーを整備するなど、進路指導室・ガイダンス室の美化・整備に引き続き努めている。 1、2年次文理コースでのChromebookによるベネッセ「マナビジョン」の活用を継続している。また、3年次の進学指導ではベネッセ「コンパス」を活用することにより、志望校検索では格段に時間を節約できるようになった。 冊子版「キャリアパスポート」は製本化できる段階にある。Chromebook等のデジタル端末との連携できる部分を確認し、デジタル化が不可能な部分については紙媒体で製作する。 	B
		3 年 次	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向け、前向きに何事にも取り組み、自ら動く力を身に付ける。【挑戦】 	<ul style="list-style-type: none"> 総探の時間や課題等に取り組むことを通して、自ら情報を収集し、計画的に行動する力を身に付けることができるようにする。 キャリアパスポートを活用して、定期調査や検定試験へ意欲的に取り組もうとする意識をもたせる。 年次集会、年次通信、Classroom等で進路に関する情報を発信し、16期生全員で進路実現に向けて努力しようとする雰囲気醸成する。 ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけたり、様々な場面で主体的に取り組む機会を設けたりして、社会性や人間性が高まるようにする。 生徒、保護者、教員間での情報共有を密に行い、適切な情報提供と進路実現に向けた準備ができるようにする。 外部講師や地域と連携した課題研究を進め、進路実現に生かすことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職率、進学率ともに100%となる。 16期生の成果発表会が実施できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総探の時間には進路分野別講座を開講し、それぞれの進路志望に向けて準備をすることができた。 キャリアパスポートで学期の始めと終わり、各行事、定期調査ごとに目標を立て、具体的な取組を考えたり、振り返りの時間を設けたりすることで見通しをもって意欲的に取り組むことができるようにしている。 ボランティア活動への参加率が高い。 各料、各コースの特色に合わせた課題研究を開講し、外部講師や地域と連携した取組がきている。また、それを発表会という形で校内や地域に広める準備をしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 総探の時間を実施した進路分野別講座では、それぞれの進路希望に向けて計画的に準備を進めることができた。学年独自のアンケートでは98%の生徒が進路決定に向けて意欲的に取り組んだと回答している。 2年次の3学期から開講した「課題研究」は、進路実現に向けての大きな材料となった。また、中学校教員説明会や「鷺羽フェスタ」において成果発表会という形で外部に発信することができた。 学校自己評価アンケートで進路決定に関する全ての項目で、肯定的回答が95%以上だった。また、ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけたところ、学校自己評価アンケートで社会貢献活動に参加している生徒の割合が2年次の時より約16%増加した。 キャリアパスポートを活用して、節目ごとの目標設定や振り返りを行うことで生徒の自律を促すことができた。 	A
実題 児 島 決 未 来 探 学 へ 地 域 連 携 の 携 充 課	総探 ・ 委 員 会 ・ キ ャ リ ア 教 育	<ul style="list-style-type: none"> 総探・児島未来学を通して、「自律・挑戦・思いやり」の意識を育み、「共同体を大切に」生徒を育てる。【自律・挑戦・思いやり】 「You Make Washu プロジェクト」を成功させる。【自律・挑戦・思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材と協働し、価値観・仕事観を広げたり、深めたりする講座や講演会を実施する(1年次) 地域の魅力について調べ、HP「倉敷とことこ」と連携し発信する。地域と協働して「祭りプロジェクト(仮称)」を発動する(2年次) 科・コースの特性を活かした課題研究を展開し、地域と連携した活動に生徒を参画させる。(2～3年次) 年次間で学びの成果と課題を共有・伝承する「つなぐ集会」を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究等、総探で取り組んだ内容を、進路実現に活かすことができる。 アンケート項目「地域に貢献できる活動に関心を持ったり参加したりしている」の肯定群が昨年度(46.0%)よりも向上する。 「総探のループブック」で、4月～3月にかけて達成できた項目が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会「ネット・SNS活用法とその注意点」を行った。「はたらくLA B」、「鷺羽だっぴ2022」に向けて準備している。(1年次) 「鷺羽フェスティバル」(12月実施予定)に向けて準備している。(2年次) 普通科ではコースの特性や進路希望に合わせた課題研究を6講座、ビジネス科は科の特性に合わせた課題研究を1講座開講した。様々なコンテストに応募したり、地域と連携した活動に参画させたりすることができた。(3年次) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「しごと研究」、鷺羽だっぴを通して、多様な価値観の中で生き抜くための素養を培った。また、「放課後のわ!しゅう」を行いコミュニケーション力の向上を図った。(1年次) 12月に児島市民交流センターで「鷺羽フェスティバル」を行い、高校での取組を地域や中学生に発信した。また、企業訪問、学校訪問を行った。(2年次) 課題研究で探究心を身につけると共に、研究成果を発表会ばかりでなく、様々なコンテストなどでも発表することでコミュニケーション力も身につけた。(3年次) 学校自己評価アンケートの該当項目は、52.2%であり、昨年度より6.2ポイント上昇した。 	A	

重点目標	担当	課・年次・委員会の目標	具体的方策	達成基準	中間評価	評価	最終評価	評価	
III 豊かな人間性を有する生徒の育成	危機 ・礼儀 ・マナー 指導の徹	1年次	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時、終了時に気持ちのこもった挨拶ができる。【思いやり】 相手や場面に応じた適切な態度や言葉遣いができる。【思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時、終了時の気持ちよい挨拶の徹底。 適切な態度や言葉遣いができる生徒を褒めることにより、良い手本を他の生徒が認識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートにおいて「私は、自分からすすんで挨拶する、期限を守る等、基本的な生活習慣が身につけている」という肯定的回答が90%以上となる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートにおいて「私は、自分からすすんで挨拶する、期限を守る等、基本的な生活習慣が身につけている」という肯定的回答が92.9%であった。(R3年度1年次生89.9%) 周りの人を気遣った言動ができる生徒も多いが、周囲への配慮が不足している生徒もまた見受けられる。 	B	
		生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的にルールやマナーを守り安全に行動できる環境を作る。【自律・思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒課による昇降口指導を年間20回以上行い、挨拶の質を向上させる。 授業の前後に行う挨拶も徹底して行うことを教員間で共有し実践力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「私は、自分からすすんで挨拶する、期限を守る等、基本的な生活習慣が身につけている」が昨年度より肯定的回答率が上昇している。(昨年度全体平均91.4%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「私は、自分からすすんで挨拶する、期限を守る等、基本的な生活習慣が身につけている」が昨年度より肯定的回答率が上昇した。(今年度全体平均94.8%) 	A	
	協働 の 充実 の 充実 の 充実	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒全員が安心安全に学校生活を送ることが出来る。【自律・思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関するアンケートを年2回以上実施する。 「いじめ」かどうかを判断するのではなく、気になることには積極的にかかわる。 細かな情報共有と組織対応を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「先生は、悩んだり困ったりした時適切に相談に応じてくれる」が昨年度より肯定的回答率が上昇している。(昨年度全体平均87.4%) 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートについては5月に実施した。まず担任に目を通してもらい、その後各年次の生徒課でチェックした。少しでも気になることを書いている生徒は各年次で聞き取りを行い、事後生徒課長に報告した。特に気になるものはすぐに、生徒課長に伝え、迅速にかつ組織で動くことができた。 学校自己評価アンケートに関しては今後集計し、分析する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「先生は、悩んだり困ったりした時適切に相談に応じてくれる」が昨年度より肯定的回答率が上昇した。(昨年度全体平均91.9%) 	B
	個別 支援 の 充実	会特別 支援 教育 委員	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒を把握し、落ち着いた学校生活が送れるようにする。【自律・挑戦・思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> 入学予定者登校日等の機会に保護者・本人から聞き取りを行う。 保護者、担任等関係者の協力により、個別の支援計画を作成する。 琴浦高等支援学校との交流授業を行う。 SCやSSW、就労支援コーディネーター等、必要に応じた外部支援機関と連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画を作成することで、関係者間で支援の方向性を共有できている。 琴浦高等支援学校との交流に関わった生徒が実りある交流になったと実感している。(事後アンケートを行う) SCやSSW等の関係機関と連携を図った内容が、年次内で共有できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画は、1学期末に作成できており、支援の方向性が共有できている。 琴浦高等支援学校との交流授業は、12月に行う予定である。 SCやSSW、就労支援コーディネーターとの連携もできており、年次内でも共有できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画は、1学期末に作成できており、支援の方向性が共有できている。 琴浦高等支援学校との交流授業は、12月に行うことができ、お互いの学校の生徒の意識を高めることができた。 SCやSSW、就労支援コーディネーターとの連携もできており、年次内でも共有できている。 	B
	自己 表現 の 充実	2年次	<ul style="list-style-type: none"> 他者と関わり、自分の意見を相手(クラスメイトや教員)に伝えようとする姿勢を身につけさせる。【自律】 	<ul style="list-style-type: none"> LHRや総合的な探究の時間等で自分の意見を提示したり、表現したりする機会を設ける。 HR、年次集会、年次通信などで生徒の活躍を紹介し、自己肯定感を高める。 生徒教員間のコミュニケーションを普段から活発に行い、よりよい人間関係づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に年次アンケートで「自分の意見を表現したり、発表できるようになった」という肯定的回答が70%以上となる(昨年度63%)。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末に年次アンケートで「自分の意見を表現したり、発表できるようになった」という肯定的回答は64.4%と昨年度より微増。 総探の鷹羽フェスタに向けてクラスでの話し合いなどは活発に行われている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 総探の鷹羽フェスタに向けてのクラス内での話し合いも影響したためか、2学期末の年次アンケートにおいて「自分の意見を表現したり、発表できるようになった」という肯定的回答は72.4%と増加している。また、「クラスの中で自分の役割や責任を果たしている」と肯定的な解答をしている生徒は87.6%となっており、自身の役割を認識し、他者と関わろうとする生徒が増加していると感じられる。 	A
校 内 環 境 の 整 備 と 環	図書 厚 生 課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の日々の学校生活が健康かつ安全でより良くなるように課として取り組む。【自律・思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の予防にも努め、日々の清掃活動を通じて、環境美化に努める。 清掃員委員会の積極的な活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価の「学校は日々の清掃活動で校内の環境を整備するように努めている」項目の肯定群80%以上を目指す。 清掃委員会の継続的な活動を支援し、それぞれの活動を通して、各委員が自己肯定感を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・教員数の減少に伴っての、分担当所や監督場所の割り振りの工夫等もしく、日々の清掃を行っている。全員での清掃活動の習慣も伝統的に定着し、日々良く活動できていると感じている。 清掃委員会や保健委員会の活動では、環境美化と衛生の両面で、校内での定期的な活動を計画し両面を押しえた活動がしっかり行っている。また、このような委員会の活動は少なからず啓発となり環境を整えることに役立っていると考えている。さらに、そのように貢献する経験が、自己肯定感にもつながると感じている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価の「学校は日々の清掃活動で校内の環境を整備するように努めている」項目の肯定群90%を超え、割り当ての先生方の指導の工夫や生徒の地道な活動が評価できる。清掃委員会・保健委員会の環境整備や衛生面の活動も、校内環境を整える点で良い啓発となっていると感じている。また、このように周りに貢献できる活動を体験することは、自己肯定にもつながることであると考えている。 	B	

重点目標	担当	課・年次・委員会の目標	具体的方策	達成基準	中間評価	評価	最終評価	評価	
IV 地域に愛着を持ち必要とされる生徒の育成	学地 習 域 と 会 連 の 携 充 実 た	国際 交 流 委 員 会	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における国際交流の持続可能なあり方を確立する。【挑戦】 	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹データベース高校との遠隔交流(オンラインや文通)を維持する。 JICA、倉敷市等の国際交流関係事業に生徒を参加させる。 長期留学生(AFS協会やWYS協会)の受け入れを実現する。 参加生徒の事後アンケートの意見・コメントを、ブログ、校紙『鷹羽』、国際交流通信等で発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業に参加する生徒が前年度より増加する。(R2年度:国際理解講座29、オンライン9、文通8、JICA1、計47名) (R3年度:国際理解講座38、オンライン27、文通・年賀状・自己紹介状236、計306名) 参加生徒の事後アンケートから、国際理解・交流についての肯定的・積極的意見が窺える。それらをブログ、校紙『鷹羽』や国際交流通信で発信できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹校データベース高校との遠隔交流(オンラインや文通)を今後実施する予定である。3月に予定していたデータベース校への短期留学は中止となった。 フランスからの長期留学生(WYS協会)1名を9月から令和5年6月までの期間で受け入れた。 今後国際交流に参加生徒の事後アンケートの意見・コメントを、ブログ、校紙『鷹羽』、国際交流通信等で発信したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月に予定していた姉妹校のアメリカデータベース校への短期留学は中止となった。 1年次生が、年賀状交換を実施した。12月に年賀状を作成し、データベース校に送付した。今後、データベース校から返事が来る予定である。次年度以降も実施していく予定である。オンライン交流はできなかった。 フランスからの長期留学生は、2年1組に入り、授業や学校行事に熱心に取り組んでくれている。 国際交流に関する校外での行事等への参加を積極的に呼びかけていきたい。 	B
	社 会 的 参 加 の 機 会	総務 課	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざした学校にする。【挑戦】 生徒が地域に愛着を持てるようになる。【自律・思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアへの積極的な参加の声かけをする。 社会貢献活動後の生徒の声を、マイタウンなどの地元広報誌に掲載する。 地域清掃ボランティア「WASHU Community Cleaners」を年間2回は実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア申し込み者総数が200名以上になっている。 学校自己評価アンケートの「社会貢献活動に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的回答が80%以上となる。(R346%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの申し込み方法をフォーム入力に変更した。手続き等がスムーズに行えるようになった。 社会貢献活動は3年ぶりに実施することができた。マイタウンへの掲載も今年は地域の人の活動写真と一緒に載せることができた。 地域清掃ボランティアについては下津井電鉄とのコラボ企画として準備していたが、7月実施はできなかったため、秋の実施を目指し準備をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア申し込み者総数は179名であった。(12月末現在) 学校自己評価アンケートの「社会貢献活動に積極的に取り組んでいる」の項目で、肯定的回答が19%であった。社会貢献活動を3年ぶりに実施でき、ボランティア活動も少しずつ増えているが生徒自身が関心を持ち参加していると感じられていないことが課題である。(R346%)しかし、保護者は81.4%が肯定的回答であり、昨年の63.2%よりも増加している。 地域清掃ボランティアは、本校生徒のみ23名で実施できた。生徒の参加しやすいボランティア活動を定期的に実施するよう今後計画したい。 	B
	内 外 へ の 情 報 の 積 極 的 な 発 信	総務 課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分の学校に『自信と誇り』を持てるようになる。【自律・挑戦・思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールの企画運営を生徒で行えるようサポートをする。 校内掲示版、HP動画、ブログ等々に生徒の表情を大きく、多く取り上げ発信する。 HPのリニューアル、ブログ記事のスピード感をもった更新を行う。 担当者を決めて、年5回は瀬戸大橋線沿線の中学校へ通う。 本校へ興味・関心を持ってもらえるような動きかけ、情報の発信方法を考え実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートで、企画運営に携わった広報委員が、「目標が達成するように動けた」と回答している。 母校訪問、配布物等で月に一度は中学校へ情報を届けることができていく。 ホームページアクセス数が4000回を超えている。 学校自己評価アンケートの「自分達の活動を見えるようにしてくれている」の項目で、肯定的回答が90%以上を維持する。(R394.1%) 学校自己評価アンケートの「学校のHPやブログ記事を確認している」の項目で、肯定的回答が80%以上を維持する。(R388.5%) SNSを利用した情報発信ができるようにする。 来年度の広報戦略をたてるための分析ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報委員会を中心にオープンスクールの企画運営を行うことができていく。2回目も準備を整えている。 新たにインスタグラム・ツイッターの配信を行うことができていく。ブログ更新も前年の更新回数を上回り、タイムリーな情報公開を行うことができていく。 YouTubeでの龍王祭の動画配信も再生回数が伸びている。 中学校への訪問は随時行うことができていくが、生徒の母校訪問を2学期実施予定である。 オープンスクールの案内をチラシに変更した。又、2回目の案内を外部印刷をしたことで、業務負担が軽減されたため、来年度の広報計画の見直しを今後も行っていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 広報委員は活発な活動を行うことができた。 母校訪問、配布物、出前講座など中学校へ情報を届けることができた。塾への情報提供も行った。 公式インスタグラム、ツイッターを開発し、情報発信を行うことができた。 学校自己評価アンケートの「自分達の活動を見えるようにしてくれている」の項目で、肯定的回答が93.4%で90%以上を維持できた。「公式ブログやSNSが学校の様子を知るのに役立っている」では生徒は82.3%、保護者は86.9%という結果であった。今後より見てもらえるよう内容に工夫し、タイムリーな配信など研究したい。 アンケートの実施を行い、来年度の広報戦略をたてるための分析・計画ができている。 	A